

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもの家すくすくしえんせんたー風のことり		公表日		2026年2月27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動に応じて、部屋の使い方も工夫し、広くしたり狭くしたりしながら利用しています。	利用人数や行事等に合わせて部屋の広さを調整して利用しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		活動内容や子どもたちの様子に応じて、プラスで配置しながら、配置基準を満たしています。	今後も子どもたちの様子に応じて、職員の配置を見直し、安心安全に配慮していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内の掲示物を減らしたり、子どもの視界に入る場所に必要以上に物を置かないように気を付けています。	活動に集中して取り組めるよう、今後も環境設定に配慮していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動部屋やトイレなど、次亜塩素酸で消毒を行い、衛生面にも配慮しながら、毎日掃除ができています。	清潔に保てるよう、今後も努めていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			子どもの様子に応じて個別での対応等が必要な時には、空き部屋や相談室などを利用できるようにしていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		活動前に日案を立て、活動後に職員間で活動の振り返りをしています。	意見を発信しやすい職場環境づくりを意識し、一つずつの目標を達成できるように丁寧に振り返りを行いながら、努めていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の評価表は全職員で目を通すようにしており、共有ができています。保護者からいただいた意見をもとに、課題に応じた改善策を考え次年度に取り入れられるものを検討するようにしています。	今後も保護者から頂いたご意見を全職員で把握しながら、改善につなげていきたいと思えます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月に1回の職員会議と、毎朝の朝礼等を通して、全員が集まって話をする機会を設けています。また、普段から職員間での会話等があるため、その中で疑問に思ったことを伝えたり相談をしたりすることができていると思います。	気になることをそのままにせず、会議やその都度確認等を行いながら、全体で共有していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者委員の設置はしていますが、外部評価の機会は設けていません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		園内研修を実施しているものの、外部への研修が年に数回程度の参加なので、今後も積極的に取り組んでいきたいと感じています。	外部で行われている研修にも積極的に参加できるように調整し、質の向上に反映できるように努めてまいります。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援計画や毎月発行しているおたより、日々の活動計画などの作成ができています。おたよりは、ホームページから保護者が確認することができるようになってきました。	ホームページにておたよりやブログ等確認できるようになっています。ブログの更新がなかなかできていないので、更新頻度をあげていけるようにしていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントシートを活用して、支援計画の作成ができています。また、担当が一人ですのではなく、職員全体で会議(カンファ)をしながら共有できるようにしています。	アンケートやアセスメントシートを用いながら、支援計画の作成をしています。定期的に言語聴覚士や、理学療法士の先生方の助言をいただきながら、作成をしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		毎月、職員が全員集まって、対象児のカンファを行っています。その内容をもとに、支援計画の作成ができています。	今後も職員が集まれる時間を調整しながら全員で把握できるように努めてまいります。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		活動の打ち合わせの際に個々の目標を共有し活動に取り組んでいます。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		半年に一回アセスメントシートを用いた評価や、子どもによっては、発達検査などを実施し、子どもの様子の把握をしています。	発達検査や、心理検査等も適切に用いながら、子どもの様子を把握できるようにしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援計画には、本人支援、家族支援、移行支援、地域支援や地域連携等の項目を設けており、支援内容が具体的に記入できるようにしています。	保護者や就園先と情報を共有しながら、支援計画に反映できるようにしていきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		グループの担当職員同士で打ち合わせをしながら、活動案を考えることができています。	子どもの興味があることを基に、職員間で共有しながら立案することを心がけています。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員間で相談しながら、活動プログラムの設定ができています。研修等を通して、新しい遊び、活動等も取り入れることができると、さらに良くなると感じています。	ガイドラインの5領域を意識しながら、1か月のおたよりを作成しています。季節の行事等も取り入れながら活動を考えていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		生活面に関する項目では特に個別での関わりを丁寧に行い、目標が達成されるよう練習や経験を重ねています。	自由遊びや製作でも、個人に合わせた内容を設定しながら、今後も集団と個別活動を組み合わせていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前には、職員で打ち合わせを行うことができます。	今後も活動前にしっかりと打ち合わせを行い、連携がとれるように努めてまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動後は、振り返りを行い、次の支援へとつなげられるようにしています。	気づいた点、子どもの様子、改善点を話ながら、次の活動に生かせるようにしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の活動後は、記録の作成をしています。	活動の様子だけでなく、保護者からの相談内容も合わせて記録をとるようにしています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行うことができます。	相談支援事業所とも連携をとりながら、定期的にモニタリングを行っています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者、もしくは子どもの担当者が会議に参加し、子どもの姿を共有できるようにしています。	引き続き、共有していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健師さんと連携を図り、支援を行ったり、連絡会を通して、地域の事業所や並行通園先の保育園、幼稚園の先生方と連携を図ることができます。	今後、行政への声掛けなどを行い、さらに連携がとれる体制をつくっていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校や特別支援学校の先生とは、年度末や年度初めに引継ぎを行っています。併行利用や移行については、必要に応じて、相手先と情報共有をしています。	卒園時や、転居時等の際には夢すこやかファイルを活用しています。また、事業所連絡会等を通して、子どもの様子や情報の共有を密に行っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援シートを活用して、情報共有を行うことができます。連絡会等が行われる際には、直接引継ぎを行ったり、直接お会い出来ない場合には電話等で行っています。	引き続き、共有していきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		事業所連絡会を通して、地域の事業所との勉強会や公開療育を行っています。	地域全体の質の向上に向けて、引き続き地域のニーズにお応えできるように内容なども検討しながら、連携を図っていきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		来園指導を通して、専門職の方からの助言をいただく機会があります。	言語聴覚士、理学療法士の先生方から定期的に活動内容等についてご指導いただき、研修等の案内もいただきながら、外部への研修も引き続き参加していきます、研鑽に努めていきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		センターの集まる会議には管理者が参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		事業所としての交流はありませんが、こども園や保育園等、併行通園をしている子どもたちがほとんどです。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者送迎の方は直接様子をお伝えし、バス利用のご家庭は、連絡帳を通して様子や課題をお伝えしています。	今後も日々の連絡帳のやりとりを通して、家庭や園のそれぞれの課題や子どもの様子を共有し、支援につなげられるようにしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニング等は実施していないものの、保護者の様子や状況に応じて、その都度面談等を行うようにしています。	母親教室も不定期で行っていますが、なかなか回数を重ねられなかったため、定期的に開催し、参加しやすい研修や勉強会等を企画していきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にご説明させていただいています。	変更等があった場合にはメール等で変更内容をお知らせしていきます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画を作成する前に保護者にアンケートを記入してもらい、子どもや家族の意向が確認できるようにしています。	アンケートや連絡帳、担当者会議等をふまえて、計画を作成しています。引き続き意向に添った計画を作成できるようにしていきます。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画の更新のたびに、作成した支援計画を使ってご説明しています。その際に、計画書にサインをいただいています。	今後も丁寧に支援計画についてご説明させていただきます。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の様子や子どもの様子から、必要に応じて面談や助言を行うことができていると思います。親子グループでは、活動を通じて、その都度助言等を行っています。	今後も相談や面談を行いやすい雰囲気づくりに努めてまいりますので、いつでもお声掛けいただければと思います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度は、園外での活動を、兄弟児の参加もできるように計画しました。子どもたちへのクリスマスプレゼントづくりも計画し、保護者同士でゆっくり子育ての話等が出来た機会になりました。	園外での活動を年1回行っていますが、また計画してほしいという声をたくさんいただきました。今後回数を増やしていけたらと思います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		上長に相談し、対応できる体制は整っていると思います。	今後も迅速に対応してまいります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログの更新をしていますが、少し滞っています。	定期的に更新できるように努めていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		一斉メールの送信や個人情報が載っている書類の扱い等を慎重に行っています。	今後も取り扱いには十分留意してまいります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの状況に合わせて、視覚提示で示したりしています。保護者とのやりとりもシステムではなく書面对応するなどそれぞれのコミュニケーションの手段にあわせて意思の疎通ができるようにしています。	今後もそれぞれの状況に合わせた対応が出来るように努めていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		児童民生委員の方が今年度見学に来てくださいました。また、地域の清掃活動や町内会の総会などにも参加しながら、地域の方々との関わりも増えてきています。子どもたちの様子も微笑ましく見守って下さり、ありがとうございます。	今後も地域に開かれた事業運営に努めます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアル関係も保護者がいつでも閲覧できるようにしています。	毎月、様々なことを想定した避難訓練を行っています。お互いに声を掛け合いながら、スムーズな避難ができるように今後も訓練を実施していきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを職員へ周知し、毎月の避難訓練も行いながら、有事に備えています。	様々な災害を想定し引き続き訓練をくりかえしていき、お子様等の安全を適切に確保できるよう努めてまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		確認、共有をしています。その他、肘内障や熱性けいれんなども職員で共有しています。	今後も子どもたちが安心、安全に過ごせるように努めます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		指示書の提出と毎月の献立が出てから、保護者からの除去確認をいただいています。	毎朝の朝礼で除去食の確認を行っています。今後も事故が起きないようにします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、点検や研修を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、小さな気づきから共有していき大きな事故につながることはないようにそれぞれが心がけています。	ヒヤリハットの事例をその都度職員全体で確認し、大きな事故につながらないよう改善しながら、子どもたちの安全を守っていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年、全職員で研修を行っています。事件、事例を通して研修を行っていますが、日々更新していくことの大切さを感じています。	毎年虐待研修を行いながら、子どもたちの安心安全な環境をつくっていきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束が必要な利用者さんはいらっしゃいませんが、必要な方には支援計画への記載と保護者からの了解を得るようにしています。	身体拘束について虐待研修等で職員一同で確認しながら、必要な際には保護者の方にもしっかりと説明を行い、支援計画に掲載していきます。	